

これは中山ですが、伊予鉄道の別会社でこういった索道会社が当時ありました。それくらい鉱石を伊予の山中深くから伊予市のほうへ運んで、港から積み出していたということがあります。これは当時の働いていた人たちです。これは広田村の鉱山の跡はこんなにはなっていません。もう山になっているだけですが、かつては広田村も賑わった。これは発電所ですが、広田村の鉱山でこの建物は今、住宅になって残っております。発電所の建物が住宅に転用されている。

保内の大峯銅山は、最盛期には別子に次ぐ出鉱量を四国では第2位として誇っております。先ほど伊東先生の写真の中にカラミ煉瓦坑道トンネルの写真があったと思います。それを製錬したのが八幡浜の佐島製錬所です。この製錬所はほとんど知られていない。今は無人島なんですけれども。実は我々が学校で習う四阪島製錬所よりも12年早く佐島は開設されております。そういう意味ではもっと知られていい遺構だったりもします。



佐島製錬所



豊予要塞砲口



豊予要塞砲座

さて、近代化遺産にもいろいろな区分がございます、あとは私のほうで戦時系遺産について、戦後60数年たっておりますのでご紹介をしたいと思います。

豊後と伊予、大分・愛媛を隔てる豊予海峡。この喉首を守るための豊予要塞というものが築られました。こういう砲口が口を開けて海を狙っております。それからこれは第二砲台跡です。この円形のはわざわざ鯉を泳がせるために池を造ったわけではなくて、砲座がありました。いわゆる大砲がここに座っていてそれを撤去した後、水がたまったということです。いまだに戦時迷彩色が鮮やかで、これは最近塗ったものではないんです。当時のままの色合いが今もある。そういうところが佐田岬灯台のほど近くに残っております。

我々はまちづくりのために四国戦争遺跡保存シンポジウムなどときどき開きまして、高知、香川、愛媛で、交代でやっております。登録有形文化財もあります。これが岬の軍用波止、豊予要塞を建設するために築かれたコンクリート波止です。それから豊予要塞は佐田岬半島だけではなくて、愛南町の由良要塞というちょうど太平洋に面した方の人里離れた絶海の孤島のようなところにもあります。もう廃虚になっております。悲しい戦争秘話で、人間爆弾といいますか人間魚雷です。一人乗り用の潜水艦で体当たりしていく悲劇を生む基地になっていました。芸予要塞があって、豊予要塞が佐田岬と由良半島との辺りにある。もちろん九州にもあるんですけど。忘れてならないのは、中島忽那諸島にも幾つかございますが、割愛します。とにかくここが防衛線最前線だったということであります。今は平和な伊予灘宇和海ですが、当時は大変だったと思います。



芸予要塞（今治市）

芸予要塞も少し紹介しておきましょう。最近脚光を浴びまして、多くの方が観光に来られて、今治市沖の小島に砲台があって、ボランティアガイドの方も一生懸命懇切な説明をしてくださいます。これが安居島という北